

## 2021年度前期 授業に関する学部・学科・センター自己点検・評価

2021年度前期に授業アンケートにお答えいただきありがとうございました。

授業アンケート結果を参考にして、それぞれの先生が自己点検・評価をされました。学科長がそれらをまとめ、さらに学部長が総括をした自己点検・評価をここに掲載いたします。

良かったことはさらに継続し、改善すべきことは今後の授業にむけて学生のみなさんにフィードバックをしていきます。

今後とも授業改善のために、「学生による授業評価アンケート」や「授業について教育改善委員の意見を聞く会」にご協力ください。

2022年2月

### 目 次

文学部	1
人間科学部	2
教育学部	3
英語学科	5
日本語日本文化学科	6
総合文芸学科	7
心理学科	8
都市生活学科／生活学科都市生活専攻	9
食物栄養学科／生活学科食物栄養専攻	10
子ども発達学科	11
ファッション・ハウジングデザイン学科	12
教育学部	13
全学共通教育センター	15
キャリア教育センター	16
外国語教育センター	17
教職支援センター	18
教務部	19

2021 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 文学部

氏名 打田 素之

2021 年度前期自己点検・評価票について、自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

一部遠隔の授業もあったが、対面が基本となり、学生の満足度も向上している。

一方、遠隔形式の導入により、対面では得られない効果があることに気づかされ、授業内容によっては、遠隔の方が好ましい場合があることも分かった。

総合文芸学科は、すでに開講科目数が残りわずかとなっているが、学生の評価も高く、好ましい結果だった。

(2) 改善すべき点

全ての教員が遠隔授業の技術に長けているわけではなく、資料の提示、画面の切り替えに時間がかかるなど、TV 授業に不慣れな教員をどうするかの問題は依然残されている。教員同士で助け合うなど、すでに取り組みられていることもあるが、しばらくは時間がかかりそうである。

FD week 期間中に、manaba を通して授業内容を確認する機会があったが、動画制作等を得意とされている方とそうでない先生との技術格差はやはり否定できないと感じた。

(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD 委員会や教学が行う支援」）

上の（2）に教員側の問題点を書いたが、それ以上に気にかかるのは、学生間の「技術」格差である。来年度から PC が必携となることから、新入生は問題ないと思うが、2 年生以上はやはり手厚いサポートが必要である（スマートフォンで卒論を作成する強者が出ないことを祈る）。

(4) その他（自由記述）

すでに FD 委員会で対応済みだが、アンケート回収率のアップが問題とされていた。

アンケート結果の信頼度を向上させるためにも、各アンケートにおいて、受講者数とアンケートの回答者数の記入は、必須である。

また、自由記述欄の書き込みが減っており、授業環境が改善されているから、記述が減ったのか、改善がなされていないから無駄と判断されたのか見極める必要がある。

提出日：2022 年 1 月 12 日

2021 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 人間科学部

氏名 竹中 康之

2021 年度前期自己点検・評価票について、自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

2021 年度前期は、“遠隔授業”、“対面授業”、“主に対面授業で一時期（緊急事態宣言の発出中）遠隔授業”のパターンの講義が実施された。遠隔授業では、昨年度の経験を踏まえ、manaba や Zoom 等を有効に活用しながら授業に取り組むことができた。また、対面授業においても、講義資料等を manaba にあげるなど、昨年度の遠隔授業の経験を生かし、学生の時間外での学習環境の充実を図っていた。

このように、昨年度の授業評価・自己点検の結果を踏まえて授業改善に取り組めており、自己点検評価は機能していると考えます。

(2) 改善すべき点

複数の学科から指摘があった点：

- ・授業外学習時間に個人差が大きく、少ない学生に対する対策が必要である。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大による“対面授業の遠隔受講”について、大学側の意図と、学生の理解が一致していない部分があった。遠隔受講の基準・調査の厳格化とともに、教員と学生間の迅速なコミュニケーションが必要である。
- ・授業中の学生の状況が把握しにくいいため、遠隔授業での「顔出し」を実施する必要がある。

(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

改善に向けた学科からの主な意見：

- ・学生が同じ日に遠隔授業と対面授業を受講することがないように、大学による遠隔授業の指定に配慮をお願いしたい。
- ・次年度からの新入生の PC 必携化に伴い、授業での有効な PC 活用に向けて、積極的な情報提供などの支援をお願いしたい。
- ・(非常勤講師から) コロナ対応のため、教員の業務負担が大きくなりすぎないような強い要望があった。

(4) その他（自由記述）

特になし

提出日：2022 年 1 月 11 日

## 2021 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 教育学部

氏名 谷川 弘治

2021 年度前期自己点検・評価票について、自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

**(1) 良かった点**

学科コメントに示されているように、Covid19 拡大に対応して行われてきた遠隔授業は、manaba, Zoom, グーグルフォーム等のツールを用いて双方向で、安定的に実践されるようになってきた。その経験が土台となり、対面授業下においても、ワクチン接種、実習等、学生の多様な状況に対応してオンラインでの授業参加やオンデマンドでの受講等、学修機会の確保が行われてきた。

さらに、Zoom, マナバ等の遠隔授業の限界点、改善点が明らかになってきたことも、ウィズコロナを含む新しい時代の大学授業の在り方を探るための成果として、大切にしておきたい。

**(2) 改善すべき点**

教育学科では対面でのスキルの伝達と確認など、遠隔授業では十分に果たせない課題が少なくない。一方で、教育現場では ICT 活用のできる人材が求められてもいる。

教育学科としては、Covid19 関連で遠隔授業によって学修した場合、対面授業によった場合と比べ、獲得された知識、技術、態度等に違いがあるのかどうかを確認すること、不足があった場合の補充策、プラス面があった場合の活かし方など、検討すべきであろう。

具体的には、学科コメントにもあげられている諸点、①実技系科目や演習系科目での実技や実践指導の難しさについて、②講義系科目での遠隔授業の可能性と限界について整理、分析することから始める必要がある。さらに、これらの課題への対応を含め、ICT を活用した授業と学習支援によって得られた実践知を収集、整理する。その際、文部科学省などの動向等に留意することはもちろんである。

専修あるいは免許・資格課程に特化した授業であるが、その枠を越えて学ぶことができるようにしたいという意見がいくつかあげられていた。これらは、2023 年度のカリキュラム改訂にむけて検討していく必要がある。

「学生が（小学校等の）教科書を常時閲覧できる環境を整備すべき」という意見があった。これについては、学科内で今少し検討を加えた上で、予算等の課題がみえてきた段階で全学レベルに提案を上げたい。

**(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）**

(2) に示した課題は学科単位で行うのではなく、「ウィズコロナを含む新しい時代における大学教育、とくに ICT 活用についてのガイドライン（手引き）の作成（仮題）」をテーマとした全学的プロジェクトを起こしていただき、その一つとして位置付けることが必要である。すでに実験的に遠隔授業を位置付けて行う事業はあるものの、教育学科では対面授業への志向性が強いいため、授業単位で手をあげることが困難と考えられるためである。

なお、(2) で示した課題以外に、下記についても合わせて検討していただきたい。

- ・ 学生の回線環境等によって生ずる通信の不安定さについて実態を把握し、改善策を検討する。
- ・ メタバースのような仮想空間の利用可能性を検討し、実証実験を行う。

学科コメントにあげられている以下の要望については、関係部局で検討を行う、あるいは学科にご助言をいただくことで、改善に結びつけることができると思われる。

- ① 受講者の基礎的能力の差がある2つの学科の学生が1つの教室で受講するのではなく、2クラスに分けてほしい  
→これは、FD からというよりも、学科から教務にあげるべき課題かもしれない。  
そのあたりの交通整理をお願いしたい。
- ② 授業評価アンケートのデータを自己点検評価の記入システムに自動で入力できるようにしていただきたい  
→これはFD 委員会で検討を行っていただきたい。
- ③ アクティブラーニングの促進のために、教室環境のさらなる整備をお願いしたい  
→これは、FD 委員会から関連部局にあげていただければ幸いである。

#### (4) その他 (自由記述)

教育学科は2022年度に完成年度を迎えるため、学科として3年間を振り返りつつ、カリキュラム改訂などを進めようとしている。学科単位のFD研修を1回でも導入していただくことで、カリキュラムの見直しと改善に向けて取り組む機運を高めることができるため、2022年度のFD委員会で実現に向けたご検討を期待したい。

提出日：2022年1月8日

## 2021 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 英語学科

氏名 F. Shiobara 川中 紀子

2021 年度前期自己点検・評価票について、遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

**(1) 良かった点**

全ての教員が、遠隔・対面、そしてハイブリッド型の授業を丁寧に振り返り、課題の質・量ともに適切かどうか、学生の視点に立って考慮する機会となったことは良かった。学生とのコミュニケーション、授業方法について真摯に振り返り、今後のために活用できることは良かった。

**(2) 改善すべき点**

回収率を記入する欄がなかったため、数値に基づいて判断するのが難しい場合が多いのではないかと。「アンケート回収率が低いので、信憑性のあるデータとは思えない」、との指摘も見られた。以前の自己点検票では、「受講者数」「回答数」の記載があった版があった。今回は、数値だけで一律に判断することは、難しいかもしれない。また、任意である「記述欄」の項目については、空白の教員も多かったので、以前のような「総合的な自己点検」の方が書きやすいのかもしれない。

数値を記入する今回の形式と、以前の形式と、どちらが教員にとって負担も少なく、また有意義であるかは、今後、試行錯誤しながら見つけていく必要があるのではないかと。

**(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）**

ICT を専門とする教員からは、他の担任教員に対して、ICT 技術についてサポートしたい、という記入があったことは学科として心強く思う。また、学生が予想以上に ICT について不慣れであること、支援が必要であると記入した教員もあり、ICT 使用の授業に関しても、更なる支援が必要である。来年度からの PC 必携の授業に向けて、FD 研修会の機会も含め、大学（FD 委員会や教学、遠隔授業サポートチーム等）の支援をお願いしたい。

**(4) その他（自由記述）**

提出日：2021 年 12 月 21 日

2021 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 日本語日本文化学科

氏名 田附 敏尚・黒木 邦彦

2021 年度前期自己点検・評価票について、自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

- 学科全体を見れば、20 年度前期よりは遠隔授業に対応できている
- 授業によっては、遠隔の方が活性化できている

(2) 改善すべき点

- 遠隔授業に対応できない教員の補助。ただし、どの教員にも、人の面倒まで見るほどの余裕は無い。
- 各教員の点検票が多過ぎて、ひとつひとつをくまなく見る余裕が無い。

(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

- 遠隔授業遂行のための補助・指導。教員同士で助け合える範囲は限られているので。
- 点検票数の削減。

(4) その他（自由記述）

- 自己点検・評価票に書く内容は減っていて楽にはなりましたが、どうせなら授業評価の数値などは自動で入力される仕組みは作れないものでしょうか（Excel ファイルにするとか）。

提出日：2022 年 1 月 7 日

2021 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 総合文芸学科

氏名 田附 敏尚

2021 年度前期自己点検・評価票について、初めての遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

- ・シラバスの達成状況もよく、また学生からの評価（授業アンケートの数値）も良好である。
- ・履修者数が少ないと、成績中央値が高くなるというのが全学的な傾向であるが、履修者数が少なくても成績の中央値も 75 点付近に抑えられており、到達目標が適切だったことがうかがえる。

(2) 改善すべき点

上述の通り、自己点検・評価のシステムとして大きく改善すべき点は見当たらない。

本学科においては、今後これらの授業が閉じられていく中で、その授業を自己評価することの意味自体が問われることになる。各教員が、閉じられていく授業の良かった点、あるいは個々の改善点を、今後継続する、あるいは新規の他の授業に適用・援用する柔軟な姿勢・態度が必要になると思われる。

(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

特になし。

（※今後本学科において支援が必要なのは、過年度生として残った学生に対する支援だと思われる。これについては学科としても最大限フォローしていきたい。）

(4) その他（自由記述）

特になし。

提出日：2021 年 12 月 22 日

## 2021 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 心理学科氏名 小松 貴弘・大和田 攝子

2021 年度前期自己点検・評価票について、遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

**(1) 良かった点**

2021 年度前期は緊急事態宣言の発出に伴い、対面授業から遠隔授業に切り替えなければならぬ期間が生じたが、昨年度から実施された遠隔授業の経験を踏まえ、専任教員・非常勤教員ともに、それぞれの科目の内容や特性に応じて manaba や Zoom 等の ICT を有効に活用しながら授業に取り組んでいる様子が見えてきた。また、学生側も提示された課題に主体的に取り組み、シラバスに示された到達目標は概ね達成できたと考えられる。

それぞれの教員が授業アンケートの結果を受け止め、授業改善に取り組んでいることから、自己点検評価は機能していると言える。

**(2) 改善すべき点**

授業外学修時間の確保についてはこれまでも多くの教員から指摘されてきた。自己点検・評価票からは、学生の負担軽減に配慮しつつも課題や動画の配信を通して事前・事後学習が行えるような授業改善の取り組みが紹介されていたが、授業アンケートの結果からは授業外学修の時間に個人差が見られ、まだまだ十分とは言えない状況である。学生が主体的に学び続けることができるよう適切な課題の設定について今後も引き続き検討する必要があると思われる。

**(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）**

次年度からは、新入生が PC 必携化となることに伴い、授業における有効な PC 活用の試みが順次積み重ねられることが求められると思われる。そのために必要な情報交換を学科内で行うのみならず、大学からも積極的な情報提供による支援があると良いと思われる。

**(4) その他（自由記述）**

提出日：2021 年 12 月 20 日

## 2021 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 都市生活学科氏名 花田 美和子・稲見 直子

2021 年度前期自己点検・評価票について、遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

**(1) 良かった点**

全体を通じ、多くの先生方がそれぞれの授業内容に応じて、90 分間学生の授業参加意欲が低下しないように遠隔授業の仕方に工夫を凝らし、またそれに対する学生の反応も真摯に受け止め、次回の授業でいかそうとする姿勢が見受けられ、自己点検・評価はある程度機能していると言える。また、初めての遠隔授業に対する問題点が浮かび上がったところが良かったといえる。

**(2) 改善すべき点**

自己点検・評価票のフォーマットを変更したことにより、数値表記については先生方の記入が統一されみやすくなった一方、自由記述欄については先生によって記載の多寡に差が見受けられた。少なくとも「指導・支援の課題」については、今後記入をもう少し促してもよいのではないかと考える。全体的に空欄が目立ったことから、もしかしたら、質問の趣旨がわかりにくかった可能性もある。

また、授業によっては、改善点は把握しているものの遠隔授業では改善に限界があるものもあり、自己点検をうまくいかせないといった実情も見受けられた。

**(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）**

非常勤講師から、少なくとも学期単位で、途中で授業形態の変更が強制されることのないようにしてほしいという意見があった。対面を重視するあまり、非常勤講師の負担が大きくなりすぎないようにしてほしいと思う。自己点検を通してこのような意見を聞くことができるのは大変有効だと思うので、ぜひ役立ててほしい。

**(4) その他（自由記述）**

遠隔授業を実施するにあたっては、学生の PC スキルの差だけではなく、授業中に顔を出すことがないため、どの程度きちんと授業に参加しているのか把握できないという意見が複数見受けられた。受講態度のマネジメントについて、何か大学として対策が講じられないかご検討頂けると幸いです。

提出日：2021 年 12 月 20 日

## 2021 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 食物栄養学科氏名 田中 あゆ子・橋本 沙幸

2021 年度前期自己点検・評価票について、遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

**(1) 良かった点**

教員各自が授業を振り返り意見を記入しており、自己点検評価が機能していた。  
本学科は対面授業が中心であったが、多くの教員が講義資料等を manaba にあげ、学生から復習に役立つとの意見もあり、遠隔授業の経験を活かしたと考える。

**(2) 改善すべき点**

- ・実施の方針 (CP) とカリキュラムマップ上の位置づけについて、関連分野の教員間で学修内容等を確認・共有することが望ましい。
- ・入学間もない 1 年生への Web 講義はやや障害があり、学生の理解の程度の把握が難しく改善が必要。
- ・コロナ禍では一度の測定人数が制限され待機時間が生じる。解消には、測定機器の追加購入が必要。
- ・担当教員を変更する際は、前任から後任へ教育内容等の引継ぎがあると良い。
- ・授業時間外の学修時間に個人差が大きく、全員の学修時間が増えるよう工夫が必要。
- ・スライド等が見えにくい教室では、授業途中で席替えをすると良い。
- ・遠隔講義の実施をより対面講義に近づける上で、「顔出し」での実施が望ましい。

**(3) 改善に向け、学科 (センター) として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点 (学科が考える「FD 委員会や教学が行う支援」)**

- ・教室に設置されているパソコンのバージョンが古く、文字化けや途中で電源が切れるなど、発表がスムーズに行かないことがあるため、バージョンアップを望む。
- ・実験・実習科目が、実験室及び演習室に割り当てられるよう調整 (時間割調整または教室変更) して欲しい。
- ・遠隔と対面が同じ日にならないように時間割を調整して欲しい。

**(4) その他 (自由記述)**

対面授業中心の学科であったため、「初めての遠隔授業を踏まえて自己点検評価が機能しているか」という設問への回答に困った。

提出日：2021 年 12 月 14 日

2021 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 子ども発達学科

氏名 大下 卓司

2021 年度前期自己点検・評価票について、遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

**(1) 良かった点**

遠隔から、対面中心となった科目も多く、対面の中でも遠隔でも代替可能な場面について言及があるなど、授業の選択肢が広がった科目もあったようである。今後に生かされることを期待したい。

**(2) 改善すべき点**

コロナ配慮願について、大学側の意図と、学生の理解が一致せず、うまく担当者と調整がつかなかった部分もあったようである。配慮を必要とする学生の側から、どのような配慮があれば学びが可能なのか、建設的な提案があれば、授業者としても対応しやすかったようであるが、そうした提案は学生からはなかったようである。

**(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）**

子ども発達学科の科目の大半が、今後再履修者用の科目となるとともに、科目はますます少なくなる。当該の学生は、授業途中で出席しなくなる傾向があるため、今後、こうしたコメント票の記載は困難になることが予想される。

**(4) その他（自由記述）**

提出日：2021 年 12 月 21 日

## 2021 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 ファッション・ハウジングデザイン学科氏名 徳山 孝子・戸田 賀志子

2021 年度前期自己点検・評価票について、遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

**(1) 良かった点**

- ・各教員が、授業内容や課題に応じた松蔭 manaba の活用、アクティブラーニングの導入など ICT 教育を積極的に実践し、より効果的な学修方法(情報の共有、学生の理解や知識の定着)が対面授業においても行われている。
- ・本学科の学びは演習、実習授業が主であり、特徴でもある。授業形態を遠隔中心から対面授業に戻せたことは、教員にとって、より充実した授業内容の実施につながり、学生の高評価につながったものと考えられる。
- ・実習をとまなう対面授業においては、道具の使い回しを避け、消毒をまめにし、ソーシャルディスタンスを常に意識しながらの授業が行われ、感染対策が十分に実行されていた。

**(2) 改善すべき点**

- ・対面による学びが必要な演習、実習科目であるにもかかわらず、コロナ感染拡大を理由にオンライン授業を選択する学生が一定数存在した。オンライン承認については、認可基準が曖昧である、厳密な調査を経て承認し、速やかに担当教員への連絡を希望する。
- ・遠隔授業では、学生の顔が見えず授業中課題にどのように取り組んでいるのかを把握することが難しく、個別の進行状況に応じた指導が難しかった。
- ・学生の学習意欲が低い。  
などの声が届いている。遠隔授業による学生の学修意欲の低下は、憂慮すべき事柄である。学科としては、実習、演習科目に対面での授業参加が難しい場合は、次年度以降の履修を推奨するなどの対策を講じている。また、リモート授業の受講方法に関しては、個人情報に関わる事柄ではあるが、学生の顔出しを必須とする大学もあり、検討事項としたい。

**(3) 改善に向け、学科(センター)として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点(学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」)**

- ・コロナの影響もあり教員が行う業務が増加したにも関わらず、そうした時間・労力の負担を全て個々の教員に押し付ける姿勢には辟易する、という厳しい意見が非常勤担当教員から届いている。

**(4) その他(自由記述)**

- ・企業などとの連携により、学生のアイデアが社会で実現することは、学生にとってこの上ない喜びであり、社会人基礎力を養うことにより、自信をもった就職活動につながる。また、社会も学生のアイデアを求めていることが多いので、産学連携を全学的に進めてほしい。

提出日：2021 年 12 月 23 日

## 2021 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 教育学科

氏名 大下 卓司 ・ 垂髪 あかり

2021 年度前期自己点検・評価票について、遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

## (1) 良かった点

前期の前半は、コロナ感染拡大により再び遠隔授業が中心となる形態を余儀なくされた状況であったが、自己点検を行った全ての教員が、対面授業、遠隔授業の準備、実施、評価に試行錯誤を重ねた様子が記されていた。教員も学生も、昨年度の蓄積があり、遠隔授業に慣れてきた様子が窺えた。

良かった点としては、遠隔授業下において、多くの教員が manaba や ZOOM による双方向の授業を実践していたことである。グーグルフォーム等、manaba や ZOOM 以外のツールを使用していた授業者もいた。対面授業への切り替え後も、manaba を併用していたことはもちろんのこと、ワクチン接種や感染への不安から対面授業の出席ができない学生への学修機会を保障するため、ZOOM で対面授業を中継していた実践例も多く報告されていた。また、教育学科では、前期に教育実習が重なる学年があり、実習中で受講できなかった内容を manaba で提示し、さらに課題の取り組みと質問を求め、個別に対応されていた授業者も多くみられた。

これらから、遠隔授業、対面授業ともに、教員による ICT 活用は進んでいることが窺えた。

## (2) 改善すべき点

遠隔授業では、実技系科目や模擬授業等の演習系科目で、実技や実践をオンライン上で指導することの難しさが記載されていた。これらの科目では、やはりできるだけ対面授業を、との声が挙げられていた。講義系科目においても、ZOOM ブレイクアウトルームを用いたグループワークでの限界が記されていた。講義内容が知識の伝達や要点整理が中心となり、課題への取り組み状況は受講生の自主性に任せる部分が大きく、受講生によって取り組み姿勢に大きな差があったことが指摘されていた。

対面授業切り替え後については、感染対策を十分に行いながら、遠隔授業で不十分であった交流活動がなんとか補われた様子が窺えた。

## (3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

## ①他学部の学生が1つの教室で受講する科目があることについて

語学の授業において、英語学科と教育学科が同じ教室で同じ講義を受ける科目があり、授業者からは、受講者の基礎的な能力に差があるため、同一教材・同一教授法で授業運営することに対して大きなやりずらさが指摘されていた。「この科目が継続されるならば、英語学科向け・教育学部向けの授業を分け、別の時間帯にする方が好ましいのではないか」とのコメントがあった。

## ②授業評価アンケートから自己点検までの実施方法について

授業アンケートを1科目ごとに、アンケート結果から数字を拾ってきて記入するのは、全科目では多大な時間を費やすことになることから、こういったものこそ、「ICT 導入をし、データベースから自動で数値を引っ張ってくるようにしてはいかがでしょうか」とのコメントがあった。

③アクティブラーニングの一層の推進のために

アクティブラーニングの促進するために、すべての教室を改善する必要があるとの指摘があった。「学生がグループワークを行えるように机の数を減らし、すべての教室に大型スクリーンを設置する必要があります」とのコメントがあった。

(4) その他 (自由記述)

特になし

提出日：2021年12月21日

## 2021 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 全学共通教育センター氏名 待田 昌二

2021 年度前期自己点検・評価票について、自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

**(1) 良かった点**

今年度も新型コロナウイルス感染症により、学期途中の一部期間に遠隔授業に変更するという事態となった。しかし、前年度の経験から授業担当者が概ね良く対応してくれた。

また、授業資料掲載や事前事後学習での manaba 利用を積極的に進めるとの授業担当者のコメントが目立った。manaba 利用はかなり浸透してきた。

このような授業担当者の努力もあり、全学共通教育センターが運営する全学共通科目の 4 系列（松蔭とキリスト教、コミュニケーション、教養、健康スポーツ）の授業アンケートについては、ほぼすべての科目で目標達成の項目が 3.5 以上であり、要望や質問への対応の項目も 3.0 未満は (2) に記した授業科目だけであり、半分以上の科目は 4.0 以上であった。

**(2) 改善すべき点**

実習的内容を含む授業は、感染対策との両立が困難であった。パイプオルガン奏楽を学ぶ授業では、パイプオルガンを十分に使用できず学生の評価は非常に低かった。次年度に向けてパイプオルガンを授業で使用できるよう準備する。

manaba での学生とのやり取りが増えた中で、学生からの深夜や早朝などの問い合わせには対応できないとの授業担当者の意見があった。授業担当者が即座に返信できないのは当然であり、必要に応じて返信可能な時間を学生に明示することを授業担当者に促したい。

スポーツ実習をはじめいくつかの科目では授業の円滑な実施のため履修者数を減らしてほしいとの意見があった。コロナ禍で配慮すべき学生が増えるとともに、対面授業と遠隔を同時に行う場合があり特に困難を感じたようだ。センターとして継続的に検討する。

**(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）**

**(4) その他（自由記述）**

提出日：2021 年 12 月 23 日

## 2021 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 キャリア教育センター氏名 青谷 実知代

2021 年度前期自己点検・評価票について、遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

## (1) 良かった点

## ①授業設計の工夫

キャリア関連科目においては、対面・遠隔の両方で実施される中で、先生方は学生の考えをテキストへ視覚化したり、限られた空間の中で個人ワーク・グループワークなど自主性が求められる内容を取り入れて下さり、授業設計の工夫を大変よくしていただいた点。

## ②主体性を導く指導方法

PPT などの投影を使用しつつ、講師からの教授だけでなく可能な限り一人一人に声をかけることに注力しました。リモート授業では非常に難しい点ではありましたが、時折グループワークなどに講師が入り対応することで少しでも学生の意識を上げるよう対応いたしました。

対面授業でありながら特段の事情の存する学生のため、全授業で Zoom 配信を実施した。また manaba にテキスト以外にサブ資料もアップし、学生の理解度を深める努力をした。結果として、これまでより出席率が高く、筆記試験点数もよかった。

## (2) 改善すべき点

## ①科目の見直しと位置付け

日商簿記 3 級を視野に入れて「簿記・会計の基礎」と「簿記・会計の実践」という 2 科目が設定されていること自体違和感を感じられていた。学生からも「教員の方の教え方ではなく、取り扱う内容として難しさを感じた。」という意見が出された。日商簿記初級相当の「簿記・会計の基礎」で十分で「簿記・会計の実践」は不要ではないか。到達目標においても基礎だけで十分だと思われる。本学の学生にとって必要な簿記・会計の学びは何なのか？を改めて検討し、科目の位置づけや方針を明らかにすることが課題である。

## ②企業関連科目との連携

本学の科目の中には企業に関する基本的な知識をまるっと学ぶ授業が見当たらない。DP では企業に関わってキャリアを切り開いていくという将来像が想定されていないからではないか。どんなスタンスでも生きていくには、企業との関係性を考えることはとても重要である。その意味で、企業というコンテキストで学ぶ本学独自のカリキュラムを定義し、その科目間連携を明確に示すことが求められている。

## (3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

・Zoom 授業の際、ビデオオフを可能としたことで、学生の受講姿勢に差が出た結果となった。基本的にはビデオオンを基本としたいが学生の同意を得るのは困難であるため、方針の統一が望ましい。

## (4) その他（自由記述）

提出日：2021 年 12 月 20 日

## 2021 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 外国語教育センター氏名 古川 典代

2021 年度前期自己点検・評価票について、遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

**(1) 良かった点**

英語科目 39 クラス、中国語科目 18 クラス、韓国語科目 14 クラス、フランス語科目 11 クラス、日本語科目 4 クラス分、計 86 クラス分を点検した。(日本語 4 クラスに関しては、前期は手違いがあって学生による授業評価アンケートが存在せず、口頭での総括に基づくものとなった。)

前期は、遠隔、対面、対面+遠隔のハイブリットの三種類の形態での授業が混在した形で運営されたが、教員の DX スキルも上がり、学生も慣れたこともあって、ほとんどのクラスで例年と変わらない高評価が得られた。

教員と学生双方の努力および協力の賜物だと、胸をなでおろしている。

**(2) 改善すべき点**

回収率がおしなべて良好とは言えず、2 割を切ったクラスが数クラスあった。今後は授業中にアンケート回答時間を設定し、携帯電話等で一斉に回答させる等の工夫が必要である。

自由記述で、「授業が高圧的で恐怖」や「先生が投げやりな態度で杜撰な対応」という気になるコメントが見られたので、担当教員に確認したところ、学生の認識とは乖離があることが判明した。後期は十分注意してクラス運営をしていただくよう伝達した。

**(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD 委員会や教学が行う支援」）**

遠隔授業を希望する学生への対応が、専任教員と非常勤教員とでは温度差がみられる。前期は雪崩のようにあとからあとから申請があり、申請許可が遅ればせになったため、出欠の判断が難しかった。非常勤教員にも納得のいくよう事前に説明をしていただけたら、専任教員が板挟みとなって大変な思いをすることはなかったのではないかとと思われる。

**(4) その他（自由記述）**

ハイブリット授業がスムーズに行えるように、各教室に器材があらかじめ設置されているとありがたいと思います。

提出日：2021 年 12 月 11 日

2021 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 教職支援センター

氏名 松岡 靖

2021 年度前期自己点検・評価票について、遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

- ①2020 年度に比べると 2021 年度は、教員と学生の双方が manaba や Zoom などによる遠隔授業に習熟してきた様子が伺われる。
- ②学生の目標達成状況では、多くの科目で学生による平均点が 4 前後まで伸び、教員による自己評価も「達成された」と「やや達成された」が多かった。
- ③一部の遠隔授業で授業外学習が増えており、とくに教科教育法の後半に模擬授業などの実践的な内容を実施でき、教育効果を学生たちも実感できたようだ。
- ④一部の対面授業で授業外学習が減っており、とくに模擬授業などのない講義科目ではその傾向が見られるのは学生側からみて当然の結果とも考えられる。

(2) 改善すべき点

- ③昨年度に続いて教科教育法などの科目を中心に教員は個別の指導に苦勞されていた。もちろん多くの方々が manaba や Zoom も活用して尽力されていたけれども。
- ②コロナ感染(疑い含む)に関わって学生の欠席にどう対応するかが難しかった。出欠の扱いだけでなく遠隔で学修する学生への配慮に不安が残ったかもしれない。

(3) 改善に向け、学科(センター)として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点(学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」)

- ①担当科目に適合した研究業績をとくに専任教員が蓄積していけるように、まずは学内紀要やセンター年報などで研究を発表できるよう支援していきたい。コロナ禍への対処で遠隔地や高齢の非常勤講師に担当してもらうことが難しい場合もあるため。
- ②コロナ感染に関する学生の欠席にどう対応するかが難しかった。後期授業からは教務部が教員に「コロナの影響による対面授業欠席扱い」を、学生に「対面授業欠席申請について」を示してくれて改善されたと思われる。

(4) その他(自由記述)

とくにありません。

提出日：2021 年 12 月 8 日

2021 年度前期 授業に関する学部・学科・センター点検コメント票

所属 教務部

氏名 鳥居 さくら

2021 年度前期自己点検・評価票について、遠隔授業の実施などを踏まえて自己点検評価が機能しているかどうかをご記入ください。

(1) 良かった点

資格科目のため、きちんと受講しようとする態度の学生が多かったことが自己点検の内容からうかがえました。

(2) 改善すべき点

成績はそこそこ良いのに学生各自の自己肯定感が若干低いような感じがするとの意見が挙げられました。遠隔授業があったためなのか、その他の理由によるものなのかはわかりませんが、科目を履修し、学んだことに対して自信が持てるような仕組みがあるといいのではないかと考えます。

(3) 改善に向け、学科（センター）として支援すべき点、大学に支援を要請すべき点（学科が考える「FD委員会や教学が行う支援」）

アンケートについて、1 名が重複して回答しているものがあって、アンケート取得のためのシステムに改良が必要ではないかという意見が挙げられました。

(4) その他（自由記述）

提出日：2021 年 12 月 17 日